

※過去5年(R元年~R5年)の宮城県内の人身事故データをもとに分析

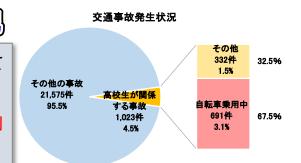
自転車乗用中の高校生が関係する(当事者に含まれる)交通事故(以下、自転車高校生事故とする。)は、令和元年から令和5年までの5年間で691件発生しています。

関係した高校生は708人で、そのうち1人が死亡、675人が負傷しています。

🔵 直転車高校生

高校生が関係する事故は全事故の4.5%を占めており、そのうち自転車高校生事故は約7割(67.5%。1,023件中691件)を占めています。

高校生の死傷者のうち、自転車乗用中は約7割 (68.3%。990人中676人)を占めています。

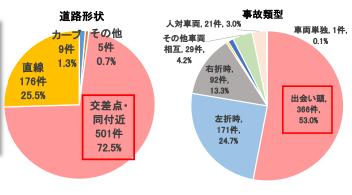


○ 6≈7月と9≈12月、7≈8時台、月≈金曜の発生が多い



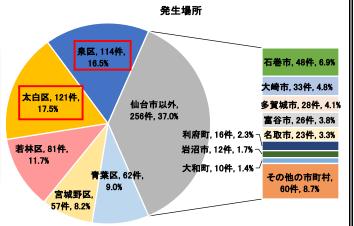
● 交差点。同付近での出会い頭事故が多い

道路形状別では交差点・同付近が約7割(72.5%。501件。全事故は55.5%)発生し、事故類型別では出会い頭が約5割(53.0%。366件。全事故は23.6%)を占めています。



個台市内での発生が多い

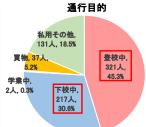
発生場所は<u>仙台市内が約6割</u>(63.0%。 435件)を占めており、特に太白区が県全体の17.5%(121件)、泉区が16.5%(114件) と高い割合を占めています。





登下校中が多い

通行目的別では、登校 中が約5割(45.3%。321 人)、下校中が約3割 (30.6%。217人)と高い 割合を占めています。



《见》次次 | 清用 | t 2%

ヘルメット着用者は 2.3% (16人) で極めて 少なく、全自転車乗用 者の7.6%と比べても 着用率は低調です。

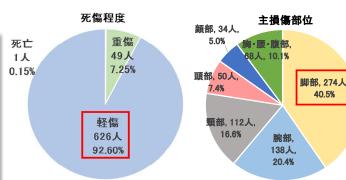


40.5%

脚部の負傷が多い

死傷程度は軽傷者が約9割(92.6%。 626人)を占めていますが、死者は1人、 重傷者は49人いました。

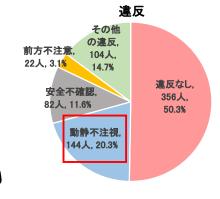
主な負傷部位は脚部が約4割 (40.5%, 274人)を占め、頭部は7.4% (50人)で、頭部を負傷した全員がヘル メット非着用でした。

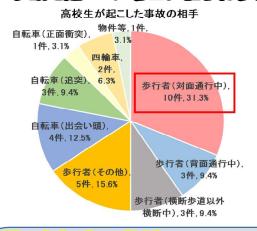




半数が違反あり

違反行為があるのは約半数(49.7%。352人) で、相手の動きをよく見ていない動静不注視が 約2割(20.3%。144人)を占めています。





自転車乗用中の高校生が第1当事者(原因 者)となって起こした事故は、自転車高校生 事故の4.6%(691件中32件)です。

その相手は歩行者が約7割(65.6%。32件 中21件)を占め、そのうち対面通行をしてい た歩行者が最も多く、全体の約3割(31.3%。 10件)を占めています。

朝、自転車で登校するときは、交差点での出会い頭事故に注意!



高校生の事故は、朝7~9時に自転車で登校中、交差点で出 会い頭事故に遭うというのが典型的なパターンです。

朝の登校時は時間的余裕がないことが多いと思いますが、そ ういうときこそ心に余裕を持って、周囲の安全をしっかり確認し ましょう。また、万一の事故に備え、ヘルメットを着用しましょう。

歩行者の近くを通行する場合はしっかりと徐行し、歩行者に ぶつからないよう気をつけましょう。

宮城県警察本部交通企画課